

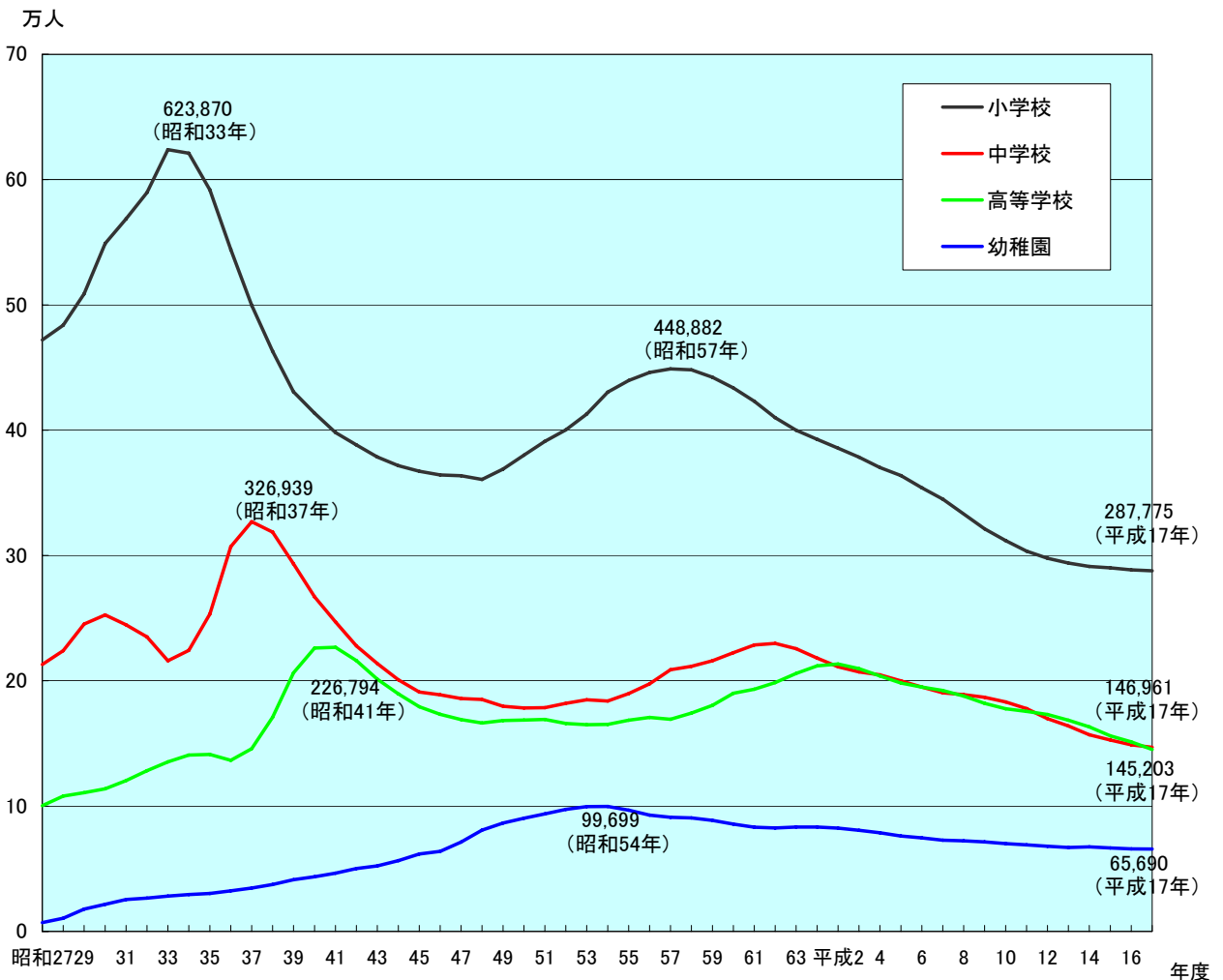
## 調査結果の概要

### 1 学校数・在籍者数

平成17年度の学校数は国公立併せて小学校783校、中学校380校、高等学校181校、中等教育学校1校、盲学校4校、聾学校5校、養護学校32校、幼稚園515園である。前年度と比べて、小学校で3校、高等学校で8校の減少、幼稚園で2園の増加である。

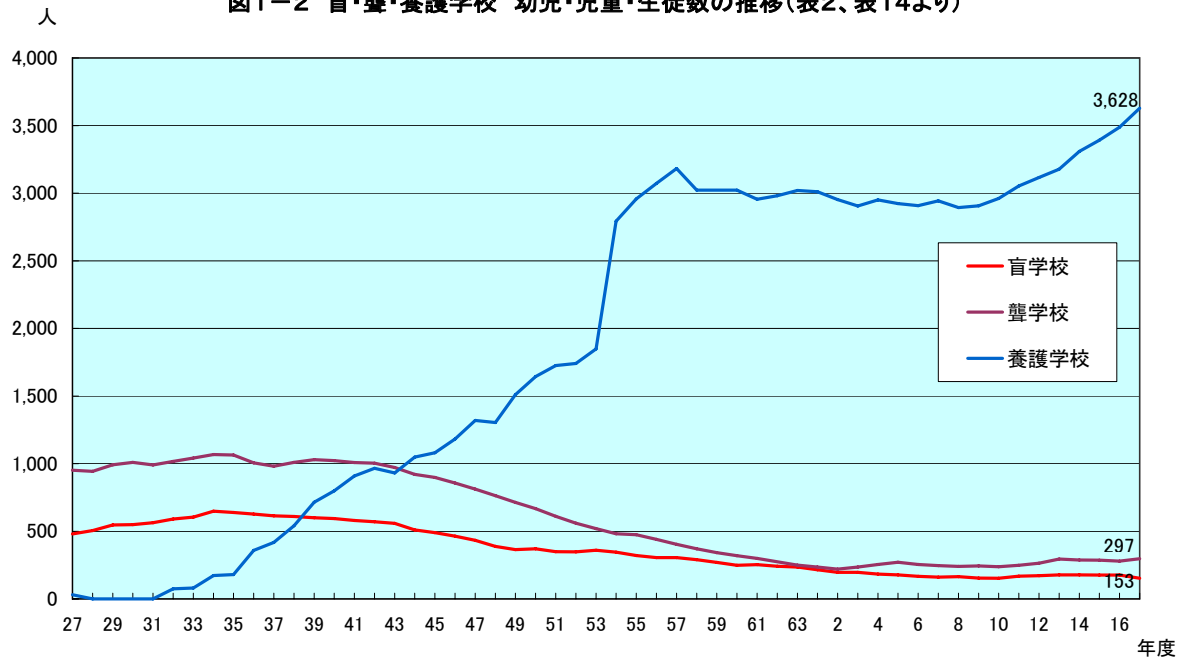
毎年5月1日の幼稚園・小・中・高等学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1-1である。

図1-1 幼稚園・小・中・高等学校 幼児・児童・生徒数の推移(表2より)



盲・聾・養護学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1-2である。  
 平成17年度の在籍幼児児童生徒数は盲学校で153人、聾学校で297人、養護学校で3,628人である。養護学校の障害別内訳で見ると、知的障害が2,841人、肢体不自由が653人、病弱が134人である。

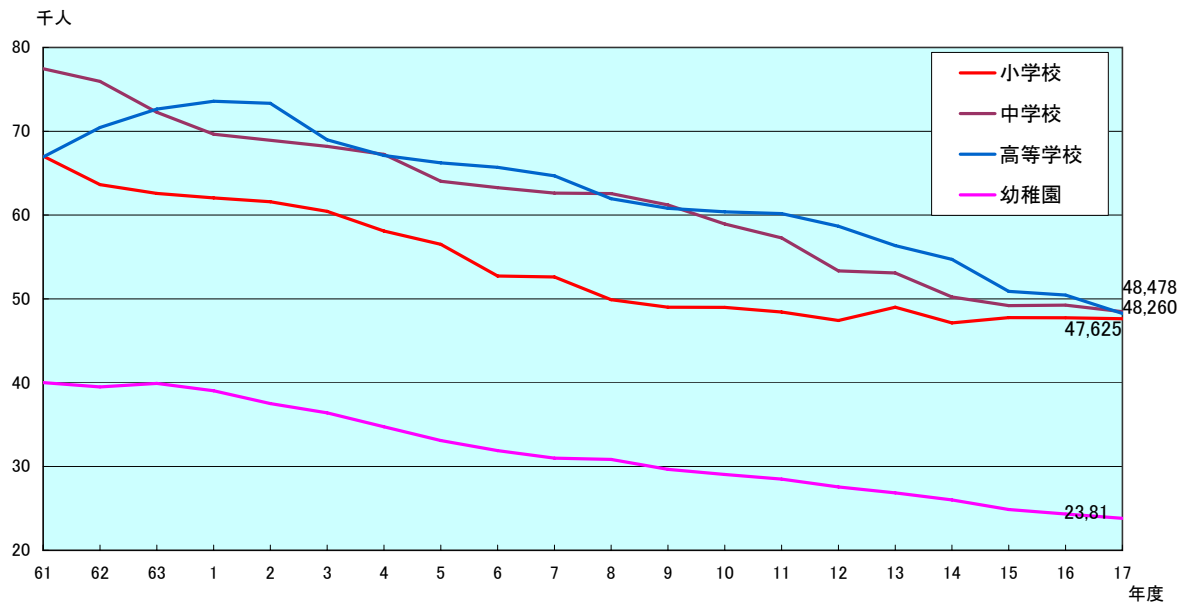
図1-2 盲・聾・養護学校 幼児・児童・生徒数の推移(表2、表14より)



## 2 入学者・入園者・第1学年児童生徒数

過去20年間の入学者・入園者数の推移を表したものが図2である。  
 平成17年度の入学状況は幼稚園(3歳・4歳・5歳入園の合計)で23,818人、小学校(第1学年)で47,625人、中学校(第1学年)で48,478人、高等学校(本科)で48,260人であり、全ての学校種別で減少傾向が見られる。

図2 年度別入学者・入園者数の推移(表3より)



### 3 中学校卒業後の状況

中学校卒業者の進路状況は、図3のとおりである。卒業者総数50,424人のうち、高等学校等進学者は48,795人、専修学校等入学者は326人、公共職業能力開発施設等入学者97人、就職者320人、左記以外・死亡・不詳886人である。

また、就職進学者は高等学校等進学者のうち13人、専修学校等入学者のうち2人である。

中学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図4のとおりである。

平成16年度(平成17年3月卒)における本県の進学率は96.8%で前年度から0.6ポイント上昇しており、就職率は0.7%で前年度から0.1ポイント下降している。

図3 中学校卒業者の進路状況(表5より)

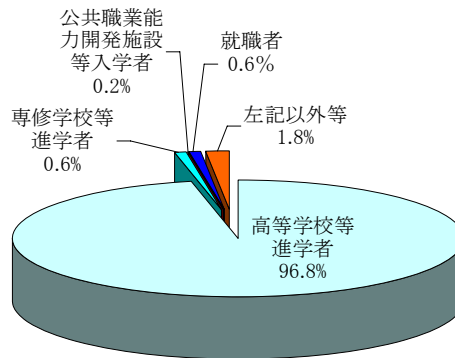
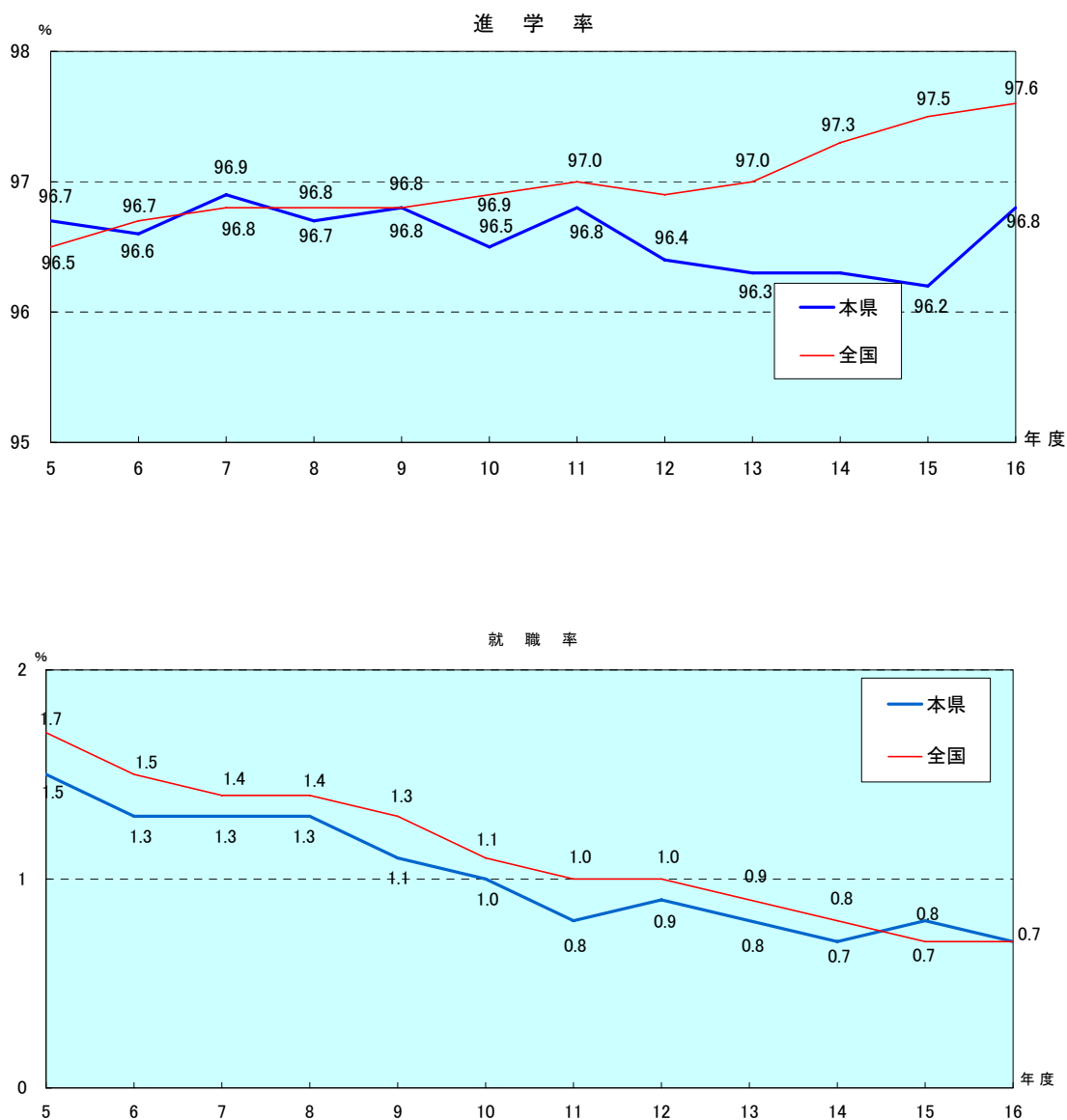


図4 中学校卒業者の進学率・就職率の推移(表6より)



#### 4 高等学校卒業後の状況

高等学校卒業者の進路状況は図5のとおりである。  
卒業生総数50,208人のうち、大学等進学者は22,681人、  
専修学校等入学者は14,420人、公共職業能力開発施設  
等入学者は239人、就職者8,580人、一時的な仕事につ  
いた者824人、無業者・死亡・不詳3,464人である。

また、就職進学者は大学等進学者のうち2人、専修  
学校等入学者のうち60人である。

高等学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図6の  
とおりである。

平成16年度(平成17年3月卒)における本県の進学率  
は45.2%で前年度から1.3ポイント上昇し、就職率は17.2%  
である。

図5 高等学校卒業後の進路状況(表7より)

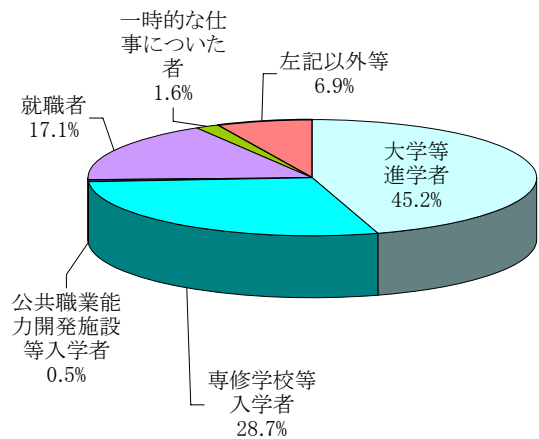
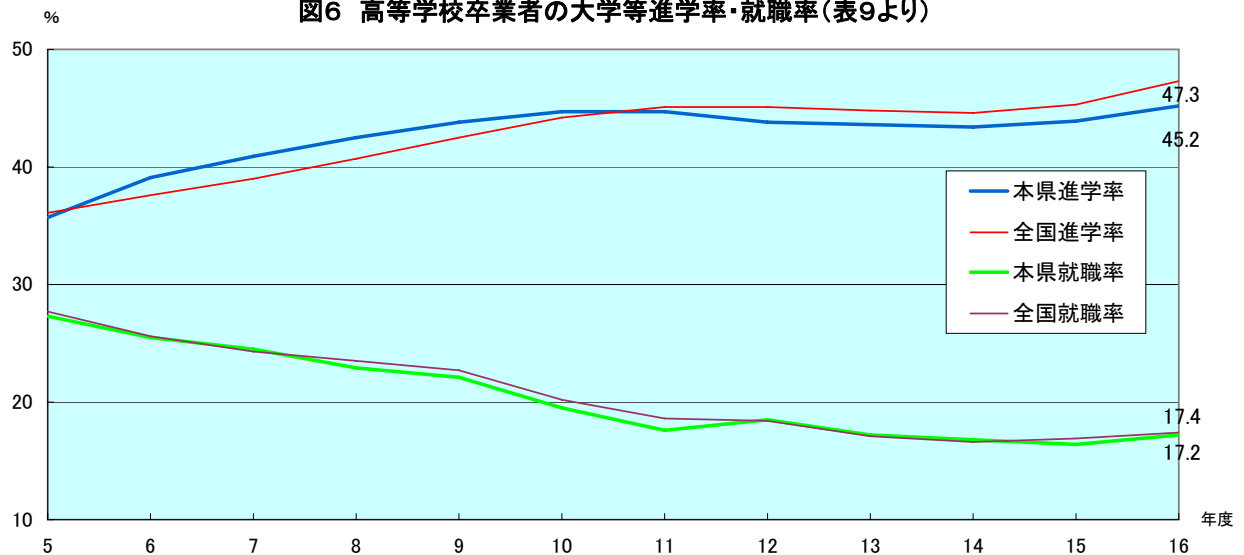
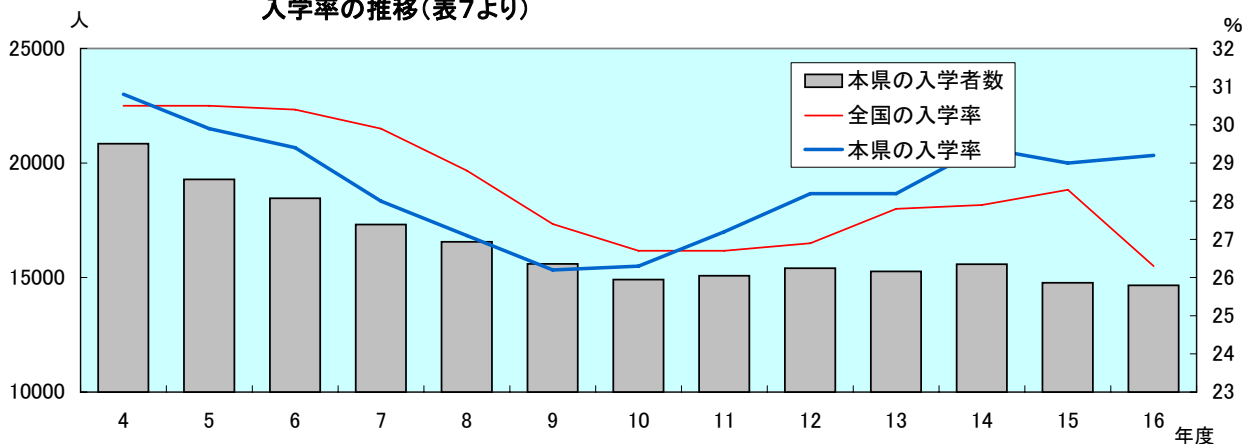


図6 高等学校卒業者の大学等進学率・就職率(表9より)



高等学校卒業者のうち、専修学校等及び公共職業能力開発施設への進路状況は、図7のとおりである。  
平成16年度卒業者のうち入学者数は14,659人(29.2%)である。

図7 高等学校卒業者の専修学校・公共職業能力開発施設入学者(合計数)及び  
入学率の推移(表7より)



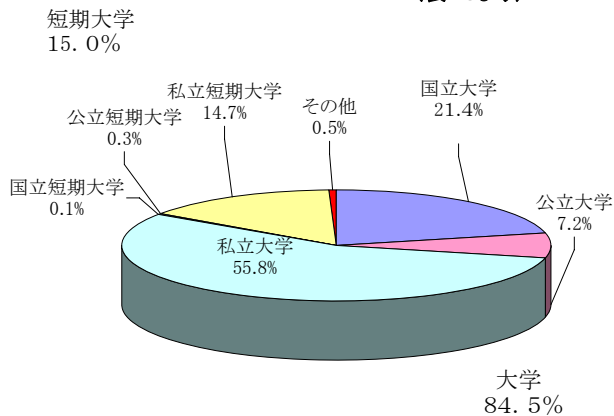
公立高等学校(全日制)から大学・短期大学等に進学した13,656人のうち、大学・短期大学への国・公・私立別進学状況は図8のとおりである。

最も多いのが私立大学への入学者で7,620人、ついで国立大学2,929人、私立短期大学2,001人、公立大学984人、その他(大学・短期大学の別科高等学校の専攻科及び盲・聾・養護学校高等部専攻科等へ進学した者)68人、公立短期大学36人、国立短期大学18人となっている。

大学と短大の比較では、大学・短期大学等への進学者に占める大学への進学者の割合が昨年の83.5%から84.5%に増加したのに対し、短期大学への進学者は15.9%から15.0%へ減少しており、大学への進学割合が増加している。

国・公・私立別では、国・公立の大学・短期大学の進学者の割合が27.7%から29.0%に増加したのに対し、私立の大学・短期大学への進学者は71.6%から70.5%に減少した。

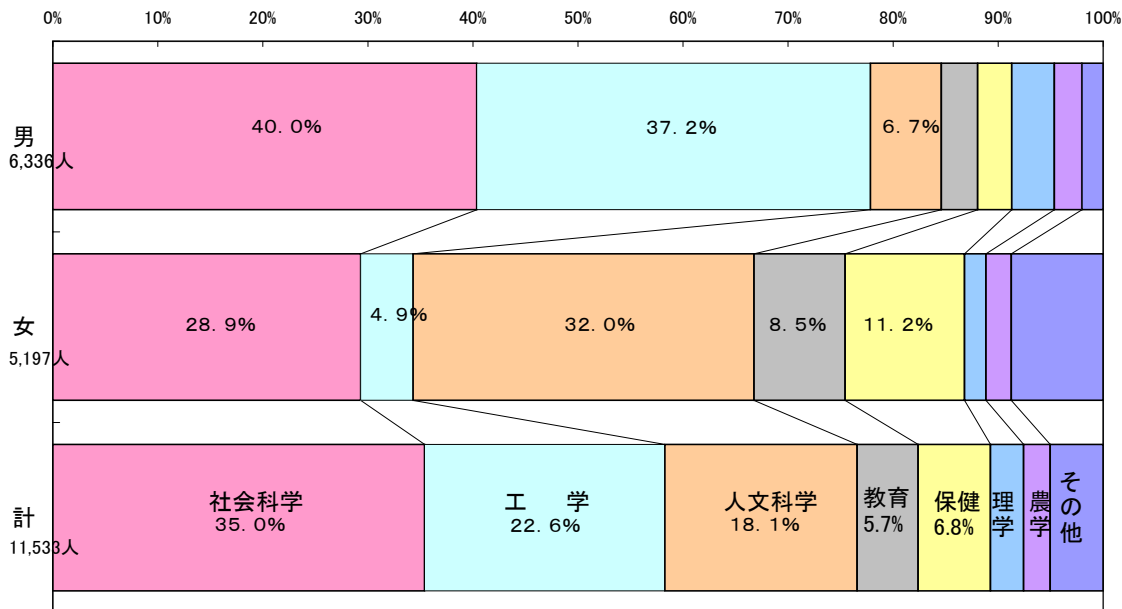
図8 高等学校卒業者の大学・短期大学への国・公・私立別進学状況[公立・全日制] (表10より)



公立高等学校(全日制)卒業者の大学への専攻別進学状況は図9のとおりである。男子の大学進学者は、6,336人、女子の大学進学者は5,197人である。

大学進学者で見ると、全体では社会科学関係が最も多く 35.0%(男子 40.0%、女子 28.9%)となっている。男女別で見ると、男子で工学関係(37.2%)が社会科学の次に多く、女子では人文科学(32.0%)が最も多い。(図中のその他には商船、家政、芸術、その他を含む。)

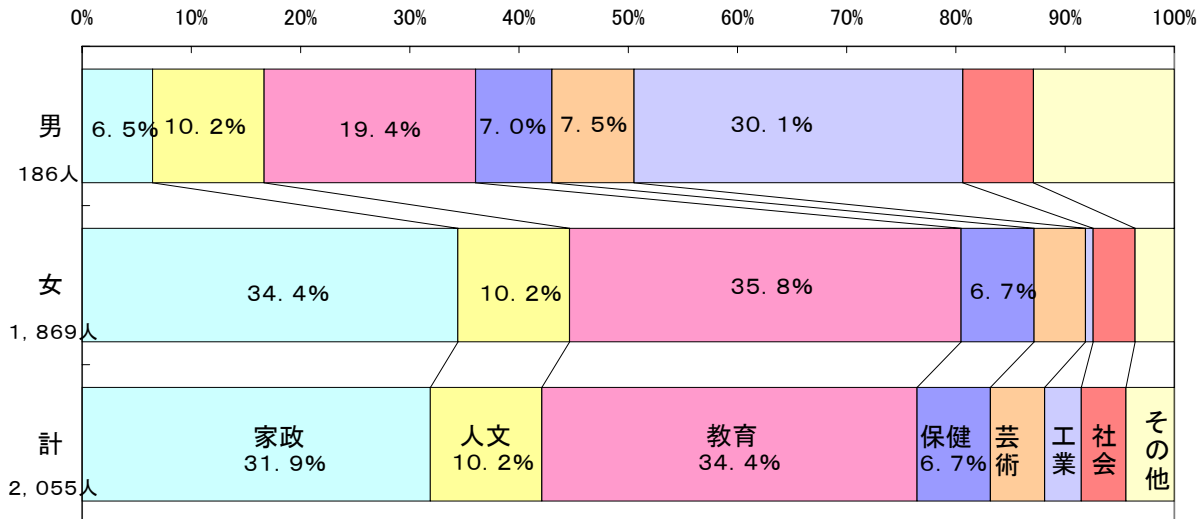
図9 高等学校卒業者の大学への男女別、専攻別進学状況[公立・全日制] (表11より)



公立高等学校(全日制)卒業者の短期大学への専攻別進学状況は図10のとおりである。男子の短期大学進学者は186人、女子の短期大学進学者は1,869人である。

男子で多いのは工業関係で30.1%、次いで教育19.4%、人文10.2%となっている。女子では教育が最も多く35.8%を占め、次いで家政34.4%、人文10.2%となっている。  
(図中のその他には教養、理数、農業、その他を含む。)

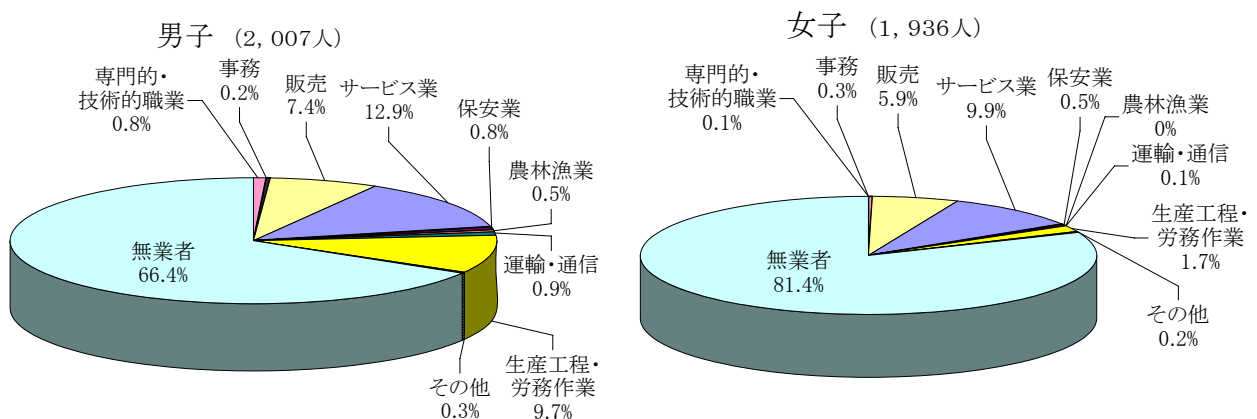
図10 高等学校卒業者の短期大学への男女別、専攻別進学状況[公立・全日制]  
(表11より)



## 5 定時制課程在籍生徒の男女別就業状況

高等学校定時制課程の生徒の就業状況を男女別に表したものが図11である。男女とも無業者の占める割合が最も多く、男子では1,332人(66.4%)、女子では1,576人(81.4%)である。次いで多いのが、男女ともサービス職業従事者で、男子では259人(12.9%)、女子では192人(9.9%)である。

図11 高等学校定時制課程在籍生徒の男女別就業状況(公立)(表12より)



## 6 「学校教育法第75条の学級(特殊学級)」の状況(公立)

「学校教育法第75条の学級(特殊学級)」の児童生徒数は、平成17年度で小学校1,953人、中学校912人である。図12は過去14年間の児童生徒数の推移であり、図13は平成17年度における障害の状況の構成を表したものである。

図12 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の推移(表16より)

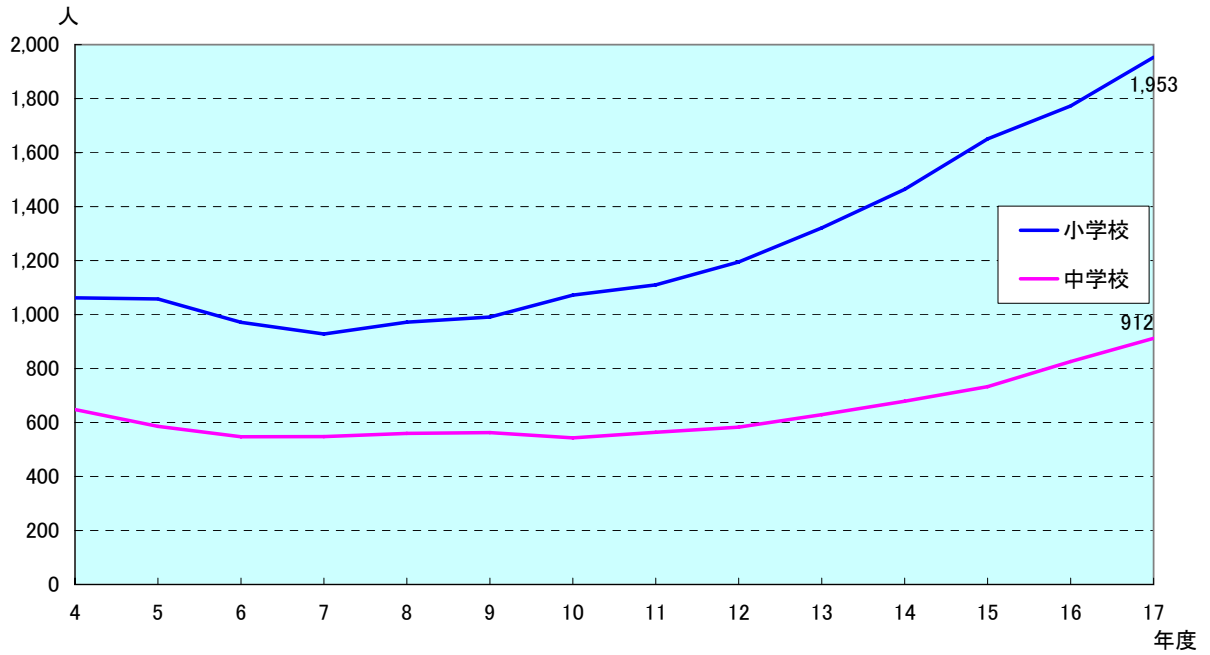


図13 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の障害別内訳(表16より)

